

【対策のポイント】

あつれきの低減 個体数管理とすみ分けにより あつれき低減を目指す	地域対応力の強化 地域において出没に適切に 対応できる体制を目指す	情報発信・普及啓発の強化 ヒグマの正しい知識を 普及し被害軽減を目指す	適正な管理の推進 科学的知見のもと 適正な保護管理を目指す
--	---	---	-------------------------------------

【予算事業】

あつれきの低減	● ゾーニング管理の普及促進（新） ・ 計画策定支援 ・ 計画に基づく捕獲支援・出没対策支援 ⇒ 生息地域、人間活動地域、その間の緩衝帯を予め設定、ゾーン毎に適正管理を行い人とヒグマとの空間的なすみ分け、人里周辺の生息数の低密度化を図る。 ● 春期管理捕獲の強化支援 ⇒ 人里周辺で捕獲圧かけ人里出没を抑制及び人材育成を図る。（R7.4～5、R8.2～3） ※ 10年間の捕獲目標数を定めて共存水準に向けた個体数管理を行う。
地域対応力の強化	● ヒグマ出没時対応訓練・広域連携 ⇒ 市町村・警察・振興局職員を対象、市街地出没を想定した実践的な訓練等を実施。 ● 狩猟者向け捕獲講習 ● 初中級者向け捕獲実践研修 ⇒ クマ撃ち初心者を対象、経験者を講師に迎え講習会を実施。 春期管理捕獲の場を活用、近隣から経験の浅い従事者を研修生として受け入れ、実践的な捕獲活動の場を通じた人材育成を図る。 ● 長期捕獲困難案件に対する専門家派遣 ⇒ ヒグマの専門家等を「ヒグマ専門人材バンク」に登録し、事案に対し派遣。 ● 全庁的なヒグマ対応体制による振興局職員派遣 ⇒ 振興局間を横断して応援。
情報発信・普及啓発	● ヒグマ検定・トランクキットを活用した普及啓発 ● ヒグマ注意特別期間（春・秋）のラジオCMを活用した注意喚起 ● チカホでのパネル展、リーフレット配布
適正な管理の推進	<生息調査関係等> ● 生息実態調査（ヘアトラップ調査）（拡） ⇒ 2箇所（石狩西部（札幌市周辺）、朱鞠内湖周辺）で実施。 ● AI活用による生息実態把握(実証試験)（新） ⇒ 生息実態把握の精度向上に向け、自動撮影、AIによる個体識別を行う実証試験。 ● ICTを活用した農業被害把握等モデル事業（新） ⇒ 1箇所 <政策検討> ● 調査・管理計画に係る検討会議

(参考) ヒグマ対策について

【目標〔ヒグマ管理計画（第2期）〕】

人身被害の防止(可能な限りゼロ)

農業被害の軽減

人里への出没の抑制

地域個体群の存続

【現状と課題】

人身被害

- ・ R 5 は 9 名で過去 2 番目
- ・ R 3 は14名で過去最多

R6 : 3件3名 (1月末時点)
R5 : 6件9名 ※過去2番目
R4 : 3件4名
R3 : 9件14名 ※過去最多

ほぼ毎年発生



農業被害額

- ・ 増加傾向。
- ・ R 5 は332百万円で過去最多。

R4 : 2億4900万円 ※過去最多
R3 : 2億6200万円
R2 : 2億2500万円

増加傾向

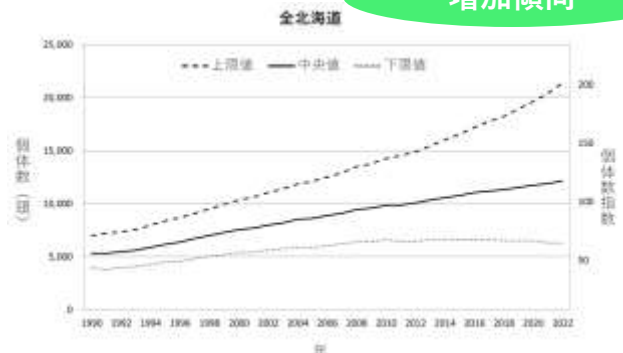


推定生息数

- ・ 増加傾向。
- ・ H26からR 4 までの 8 年間に 16 % 程度増加。

R4(2022) : 12,200頭 (6,300~21,300頭)
H26(2014) : 10,500頭 (6,600~16,000頭)
H2(1990) : 5,300頭 (3,900~7,000頭)

増加傾向



捕獲頭数

- ・ 平成元年以降、増加傾向。
- ・ R 5は1804頭で過去最多。
- ・ R 3は1056頭で過去 2 番目。
- ・ 許可捕獲が多い。

増加傾向

